

## 駒ヶ根駅前広場のリニューアルのテーマは どのように決まっていたか？

伊那市をもっと元気にするにはどうしたら良いかについて考えるため、学校のみならずアンケート調査を行ったり、まちに出てまちの人にインタビューを行ったりしました。

伊那市のまちづくりを考えるために、リニューアルした駒ヶ根駅前広場の現在と過去をGoogle Mapのタイムマシーンを使い比較しながら違いを見つけました。友だちと意見を共有して駒ヶ根駅前でのリニューアルにあたってのテーマについて考えあいます。



①市街地再開発事業として駒ヶ根駅前広場がリニューアルしました。「駒ヶ根駅のまちづくり」を参考に伊那市のまちづくりを考えよう。



②Google Mapのタイムマシーンを使って、過去のストリートビューと現在のものを比較して、駒ヶ根駅前広場がどのように変化したかを見つけていきます。



③過去と現在のストリートビューを使って様々な場所の比較を行い、気づいたことをメモしていきます。駐車場のことや人が通る時の安全面などに気づいていきます。



④お互いに気づいたことをグループの中で共有し検討していきます。グループでまとめられた考えは、この後クラス全体に共有されました。



⑤グループごとに話し合われた内容をプレゼンテーションしていきます。  
子どもたちは伊那市のマスタープランを作って市長さんに届けようと考えています。



⑥「駒ヶ根駅前広場」のリニューアルのテーマがなんであったかを予想し共有しました。友だちとの共有で、「駐車場が大きい、安全に誰もが満足できる、自然があって安全な駒ヶ根駅」といった意見に共感する児童が多くみられました。

伊那小学校 3年 荒谷眞治 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

## 子どもたちが描いていくストーリーを見つめる

### 子どもたちが持った疑問（1年次）

「（横断歩道は）人が通ったらピカピカするのはどうして？」

子どもたちは、学校近くにある横断歩道に疑問を持ちました。ピカピカするのはどうしてか追究する中で「信号がない横断歩道だから、運転手さんに横断したいということを知らせないといけない」「右左右見て渡るけど、運転手さんにも気づいてもらえるようにしたほうがよいのではないかな」と考え、その仕組みを再現するためにセンサーで感知した時にメッセージを表示するプログラムを工夫して作りました。



### 子どもたちが持った願い（2年次）

理想のまちづくりで「車を動かしたい」（mBotプログラミング）

子どもたちは、ダンボールを使って道、建物、車を再現し、理想とする街を作りmBotを用いた自動運転のプログラミングを行いました。この取り組みから「スーパーは、人が行き来する場所であり、客を迎える店側の立場と客として訪れる立場との相互の関係性があること」を発見しました。願いに応じたプログラミングを行うという活動が子どもたちにとって真真正正な学びの姿であると捉えることができます。



### 調査し発信する子どもたち（3年次）

「まちをもっと元気にする」ために自分たちにできることはないの？

子どもたちは、伊那市のCMを作ることにしました。伊那市外に住んでいる人にCMを見て伊那市に来てもらいたいと考えました。CMづくりのテーマを「まちが変わっている、新しくなっている伊那市」として、今まで調べてきた伊那市の魅力を盛り込みました。

iMovieのグリーンスクリーン機能を使って素敵なムービーに仕上がりました。



荒谷眞治 先生の論文を参考にさせていただきました <https://www.j-stem.jp/wp/wp-content/uploads/2022/08/A-1.pdf>

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的  
学びを深めるICT活用

先進的  
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の  
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び  
創造性を育む学びの実現